

第38回 メディアとことば研究会 特別講演会

2012年11月30日(金) 於 学習院大学 中央教育研究棟 303

(JR目白駅下車徒歩1分、地下鉄副都心線雑司ヶ谷駅下車徒歩7分 <http://www.gakushuin.ac.jp/mejiro.html>)

参加費無料

「メディアとことば研究会」HP <http://www.hituzi.co.jp/kenkyukai/media-kotoba.html>
※研究会・懇親会の参加希望、お問い合わせは、メディアとことば研究会事務局
(medialalala@gmail.com)までご連絡ください。

プログラムの進行

18:00～18:30 総会

18:30～20:00 特別講演会

◎講演者 クレア・マリイ (Claire MAREE)

メルボルン大学アジア・インスティテュート (日本語・日本研究)

(Japanese Program, Asia Institute, University of Melbourne)

近著:『おネエ言葉論』(青土社 2013 予定)

主な著書:『発話者の言語ストラテジーとしての^{切り抜ける・交渉・談判・掛け合い}ネゴシエーション行為』(ひつじ書房); Fran Martin, Peter A. Jackson, Mark McLelland and Audrey Yue (eds). *AsiaPacifi Queer: Rethinking Genders and Sexualities*. University of Illinois Press.; 小玉亮子(編)『現在と性とめぐる9つの試論』横浜:春風社; Janet S. (Shibamoto) Smith, Shigeko Okamoto(eds). *Japanese, Language, Gender, and Ideology: Cultural Models and RealPeople*. Oxford: Oxford University Press. 他

◎タイトル

越境することば——テロップに書かれるおネエキャラのことば

◎キーワード

アイデンティティ・おネエ言葉・ジェンダー規範・テロップ(字幕)・ライフスタイルテレビ

◎概要 バラエティ番組における装飾としてのテロップは日本のテレビの特徴の一つであると指摘されている(Gerow, 2010)。画面に打ち出されるテキストは、同時性を伴うようにみえるが、編集過程において収録後の映像に加えられているテロップはむしろ「事後性」(木村, 2011)を帯び、一定のエンターテインメント効果を狙う。何が文字化されるのか、また、だれの話し言葉がどのように文字化されるか、を分析することにより、娯楽として消費されることばとその発話者が浮上してくる。本発表では、2000年半ばにブームを巻き起こした「おネエキャラ」を中心とする番組『おネエMANS』に的を絞り、サブカルチャーからマスコミへ、話し言葉から文字テロップへと超越する「おネエキャラ」のことばの分析から見えてくる、ジェンダー規範の言語表象を取り上げる。ライフスタイルテレビにおけるジェンダー規範の交渉を考える。

(※) 文中の引用文献

Gerow, A. (2010). Kind Participation: Postmodern Consumption and Capital with Japan's Telop TV. In M. Yoshimoto, A. Tsai & J. Choi (Eds.). *Television, Japan and Globalization*. MI, Anne Arbor: Center for Japanese Studies, The University of Michigan.
木村大治 (2011)『括弧の意味論』東京: NTT出版.)

学術論文をまとめませんか? ひつじ書房では言語学や日本語学、民俗学などの編集経験と技能により文学と言語、社会とコミュニケーションを横断する研究を支援します。5歩先を行く研究を出版したいと考えています。新しいタイプの紀要「接続」などもつくっております。学術同人誌の刊行もお引き受けいたします。お問い合わせはご遠慮なく <toiawase@hituzi.co.jp> 宛にメールでお願いいたします。

〒112-0011 東京都文京区千石2-1-2 大和ビル2F

TEL: 03-5319-4916 FAX: 03-5319-4617 e-mail: toiawase@hituzi.co.jp <http://www.hituzi.co.jp/>

ひつじ書房

